



糺勸進能

神のおはす世界文化遺産の地にて奉納される祈りの能
ただす かん じん のう

能「安達原」
あだちがはら

シテ 林 宗一郎
ワキ 原 大
ワキツレ 有松 遼一
アイ 茂山 忠三郎
笛 森田 保美
小鼓 林 大和
大鼓 谷口 正壽
太鼓 前川 光長
後見 松野 浩行
地謡 河村 晴道
味方 團
河村 浩太郎
樹下 千慧

| 関連シンポジウム | 糺勸進能「安達原」を語る

「糺の地の芸能と現代—祈りと舞台芸術、能楽の可能性」

【日時】平成29年12月3日 日 13:00-15:00 (受付開始/12:30)

第1部 「能《安達原》に描かれているものとは何か？」 原 瑠璃彦

第2部 「能《安達原》の可能性—鬼・女・東北」 榎本了壺×有松 遼一×原 瑠璃彦

【会場】賀茂御祖神社(下鴨神社) 公文所

《パネリスト》榎本 了壺 (アートディレクター)

有松 遼一 (能楽師ワキ方高安流)

原 瑠璃彦 (日本学術振興会特別研究員)

《コーディネーター》濱崎 加奈子 (有斐斎弘道館館長、専修大学准教授)

【入場料】無料 ※要申込み

【お申し込み先】《メールにて》 tadasu-noh@kodo-kan.com

メールでのお申し込みの場合、上記のメールアドレスまで、住所・氏名・電話番号・枚数をお知らせください。公演入場料は1週間以内に右記振込先までお振込みください。お振込み確認後、チケットをお送りいたします。

京都銀行 西陣支店 普通預金口座
5092973 糺猿楽再興実行委員会

《下鴨神社にて直接申し込み》 TEL:075-781-0010

【お問い合わせ】 TEL:075-781-0010 / E-mail: tadasu-noh@kodo-kan.com

【主催】糺猿楽再興実行委員会(下鴨神社内)

【糺勸進能・安達原公演協力】はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

<http://kodo-kan.com/tadasu-noh/home.html>

平成29年度
文化庁文化遺産を活かした地域活性化事業



【日時】平成29年12月16日 土
午後5時開演 (開場/午後4時15分)

【会場】賀茂御祖神社(下鴨神社) 舞殿 [重要文化財]

【入場料】3,000円

雨天決行/能公演は屋外での開催のため、お越しの際は防寒着をご準備ください。よろしくお願いいたします。

安達原(黒塚)について

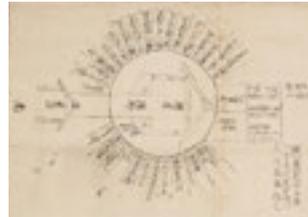
震災から間もなく、気がつくくと、かたわらに謡曲「黒塚」があった。安達が原の鬼婆伝説の舞台とされる地は、そもそも福島県二本松市にある。だからと言うべきか、巨大な地震と津波、そして原発事故に襲われたあとに、なにか無気味なモノ、鬼の顕現に立ち会わされているかのような、魂のおのきを感じざるをえない瞬間があった。おそろしい、だれも見なかったこと、聞いたことがない現実が身をもたげようと足掻いていた。鬼が、鬼婆が、そこに見えない異形の身体をむき出しにする。だれもが鬼になる、鬼婆になるのだと思つた。ところが、それはいつしか遠ざかり、人々はなにもなかったかのような顔を取りつくりうろたえていた。そうして、福島の声は沈められていった。この国の人々はみな、それを忘却することにした。なにが起こつたのか、これから起ころうとしているのか、いまだに、わからない。幾千、幾万の身悶えするしかない残酷な夜が、それと意識することすら禁じられながら、降りそそいでいる。この京都の街のうえにだって、きつと透明な残酷は満ちている。だから、「黒塚」との新たな出会いが必要だ。

福島県立博物館館長 赤坂憲雄

【糺勸進能とは】

糺河原勸進猿楽は、今から約五五〇年前の寛正五年(一四六四)に將軍足利義政をはじめとする錚々たる大名の前で行われた猿楽興行です。後の観世流隆盛の契機となったこの一大イベントの様子は、「寛正五年糺河原勸進猿楽図」として観世宗家に大切に伝えられてきました(左図)。長らく途絶えていたこのイベントは、賀茂御祖神社(下鴨神社)第三十四回式年遷宮奉祝、観阿弥生誕六八〇年、世阿弥生誕六五〇年、糺河原勸進猿楽五五〇年を記念し、平成二十七年五月に糺の地で再興されました。

今回は、東北福島の鬼婆伝説を描いた能「安達原」を上演いたします。



「寛正五年糺河原勸進猿楽図」(観世宗家所蔵)

【演目「安達原」について】

「道成寺」「葵上」とともに三鬼女と呼ばれ、観世流では「安達原」と称されますが、他の流派では「黒塚」と呼ばれる演目です。用いられる般若の面は、女の恨みや執心を具象化して恐ろしさを感じさせる一方、単純な妖怪変化ではなく、どこか人間の悲哀を残した奥行きのある表情が印象的です。

前半で人生の真理に到達したかのような哲学的とさえいえる語りで、秋の物寂しい風情を醸す一方、後半で鬼女と化する、一人の女のすさまじい変化が表現されます。寂しい陸奥の山麓という土地の雰囲気と結びつき、人生とそれを取り巻くさまざまな事象の陰影の深さをじっくりと味わえる能と言えるでしょう。

現在は福島県二本松市となった安達原で、旅人を襲っては喰らっていたという鬼婆伝説をベースとした演目を、東日本大震災とそれにつながる悲劇と重ね、さらに世界文化遺産の糺の地で「勸進」として神々へ奉納されることの意味についても思いを馳せていただくと幸いです。

上演会場である舞殿そばの橋殿での関連展示「語りがたきものに触れて」もあわせてご高覧ください。

【関連シンポジウム】 糺勸進能「安達原」を語る

「糺の地の芸能と現代 — 祈りと舞台芸術、能楽の可能性 —

「偽りをただす」の意ともされる「糺(ただす)」の森は、神の言霊が伝えられる地。平成27年に550年ぶりに再興された糺の地での能楽(糺勸進能)は、糺の地がまさしく<神の舞い降りる場所>であり、芸術を通して、神と人、人と人が交わる場であることが実感されました。暮れゆく陽の移ろい、風の音、鳥の声、すべてが交わりながら、舞台は進行していきます。このように、いにしえの時間を感じながら、<祈りと芸能>という、日本文化のひとつの原点へと思いを馳せることは、現代日本にとって、どのような意味を持ち得るのでしょうか。

このたび、東日本大震災後に福島県からわきおこったアート展示に関連し、福島ゆかりの能楽「安達原」が上演されます。京の地で「安達原」が上演される、その意味とは——。上演に先立ち、演目「安達原」をわかりやすく解説しながら、「祈りと芸能」の現在・未来について、舞台芸術、アート、信仰など、さまざまな視点から語りあうことができると思います。ぜひお気軽にご参加ください。

《コーディネーター》濱崎 加奈子 (有斐斎弘道館館長、専修大学准教授)



榎本 了彦 (アートディレクター)

1947年東京生まれ。クリエイティブ・ディレクター。京都造形芸術大学客員教授。青森県立美術館パフォーミングアーツ推進委員長。

10代の頃より花柳伊千舞の創作舞踊の日本はじめ、台湾演出を多数。天井根数美術監督などを務める一方、1974年月刊「ピクチャーハウス」(パルコ出版)を萩原朔美と創刊。以降デザイン、編集、出版、文化イベント、TV番組制作等の仕事を展開する中で勸修川原三郎、フィリップ・ドックワシ、首藤康之等のポスターのアートディレクションを手掛ける。近年では2015年「パフォーマ70 HONMOKU」監修、総合司会。2016年ギンザ・グラフィック・ギャラリーで、「榎本了彦コマーシャル展」開催。2017年「幻想市街劇・田園に死す」(三沢市)企画協力、アートディレクションなど、幅広い分野で活動を展開。



有松 遼一 (能楽師ワキ方高安流)

1982年東京生まれ。谷田宗二郎師、飯富雅介師に師事。公益社団法人能楽協会所属。京都大学文学部卒業、同大学院博士課程(国文学) 研究指導認定退学。京都大学・同志社女子大学非常勤講師。

京都を中心に、大阪・東京・名古屋・九州・北海道など、数々の舞台に出演。海外公演や子どもたちのワークショップ、学校公演にも多数参加。大学の講義では能楽や和歌など古典の魅力を伝える。能が現代に生きる芸能・舞台芸術であることを問い続ける。



原 瑠璃彦 (日本学術振興会特別研究員)

1988年生まれ。京都出身。日本学術振興会特別研究員。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得満期退学。

日本の庭園、能・狂言をキーワードに分野横断的な研究をおこなう。主な業績に共著「Promise Park」(workroom press, 2017)、共編「大倉源次郎の能楽談義」(淡交社, 2017)等。また、パフォーマンスや展覧会などの創作の現場に関わる活動として、これまで、坂本龍一・野村萬斎・高谷史郎による能楽コラボレーション「LIFE-WELL」(2013)、ムン・キョンウォン+YCAM「プロミス・パーク——未来のパターンへのイマジネーション」展(2015)に参加。

その他関連事業

① トークイベント+上映会

「祀る・鎮める— 黒塚から」

【日時】12月16日[土] 15:00-16:30

※糺勸進能と同日開催

【会場】賀茂御祖神社(下鴨神社)公文所

【講師】渡邊晃一(美術家)

【聞き手】赤坂憲雄(福島県立博物館館長)

【参加費】無料(申込不要) ※先着200名様

② 展示

「語りがたきものに触れて」

【開催期間】12月2日[土]—17日[日]

【観覧時間】6:00-17:00

【会場】賀茂御祖神社(下鴨神社)橋殿(重要文化財)

※他、3会場でも展示あり

【主催】はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

【後援】京都新聞

会場へのアクセス

【私鉄】

・京阪[出町柳駅]下車 徒歩12分
・阪急[河原町駅]より京阪電車[祇園四条駅]まで
→京阪電車[出町柳駅]下車

【JR】

【京都市営バス】
・京都市営バス「出町柳」下車 徒歩12分
→「北大路駅」よりバス1番・205番にて「下鴨神社前」下車
【市バス】京都市営バス4番・205番にて「下鴨神社前」下車

※会場は、いずれも下鴨神社 西駐車場近く。
西駐車場は「下鴨神社前」バス停の北側より西参道に入る。

